



J. FRONT RETAILING

2010年 8月16日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2010年7月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	7月度	累計
百貨店業	▲2.1（▲1.5）	▲2.0（▲1.5）
スーパーマーケット業	▲3.6	▲3.4
卸売業	▲17.5	▲21.9
その他事業	▲1.0	6.4
連結合計	▲3.4	▲3.5

（注1）百貨店業の売上高は、お中元早期ギフトの売上計上を、本年・前年ともに受注時から出荷時に変更した基準による対前年増減率。

（注2）百貨店業合計の（ ）内は、松坂屋岡崎店（2010年1月31日営業終了）を除く既存店ベース。

（注3）新基準による本年売上と従来基準の前年売上（松坂屋岡崎店含む）との比較では、7月度は百貨店業合計は対前年5.4%増、連結合計は同2.4%増。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- 7月度の百貨店事業の売上高は、強化したヤング・ヤングアダルト向け婦人服・洋品のクリアランスが好調に推移するとともに、前月不調であったお中元ギフトの売上が7月に入って回復するなど好材料があったものの、美術・宝飾品など高額品が不調であったことに梅田店の大規模改装工事による影響なども加わり、大丸松坂屋百貨店直営店は対前年▲1.3%減、関係百貨店を加えた百貨店事業合計は、同▲1.5%減となった。

2) スーパーマーケット業

- ピーコックストアは、グランパーク田町店、自由が丘店、東小金井店や6月にリニューアルした上池台店などが好調を維持したものの、閉鎖店舗（常盤平店・茶山台店など計4店舗）の影響もあり、全体としては対前年▲3.6%減となった。地区別では、首都圏が対前年▲2.6%減、関西地区が同▲3.1%減、中部地区が同▲8.9%減であった。

3) その他

- 卸売業の大丸興業は、ホームセンター向け商材やアパレルなどが苦戦し、対前年▲17.5%減となった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2010年7月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	7月度		累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	19.8	81.3	23.6	80.1
大丸 梅田店	▲30.9	▲13.3	▲26.8	▲6.7
大丸 東京店	▲4.3	▲2.0	▲6.6	▲0.9
大丸 ららぽーと横浜店	▲1.1	-	▲2.1	-
大丸 浦和パルコ店	▲7.2	-	▲4.1	-
大丸 京都店	▲4.3	▲0.4	▲2.9	3.5
大丸 山科店	▲4.7	-	▲3.7	-
大丸 神戸店	▲1.4	4.0	▲2.9	4.3
大丸 新長田店	▲0.1	-	▲1.6	-
大丸 須磨店	0.9	-	2.1	-
大丸 芦屋店	▲7.1	-	▲2.8	-
大丸 札幌店	9.6	5.5	7.5	4.5
松坂屋 名古屋店	▲4.6	▲2.4	▲3.6	▲1.3
松坂屋 上野店	▲1.3	2.9	▲0.6	4.0
松坂屋 静岡店	▲5.0	1.8	▲6.0	▲3.4
松坂屋 銀座店	▲15.6	41.3	▲9.6	36.3
松坂屋 高槻店	▲22.7	6.0	▲23.9	7.4
松坂屋 名古屋駅店	65.4	15.6	56.2	14.6
松坂屋 豊田店	2.5	0.5	▲0.9	▲0.6
大丸松坂屋百貨店合計	▲1.3	8.1	▲1.1	9.3
博多大丸	▲2.1	▲0.5	▲2.8	▲0.4
下関大丸	▲6.0	▲5.5	▲7.0	▲7.1
高知大丸	▲2.8	1.5	▲5.2	▲2.5
百貨店事業合計	▲1.5	-	▲1.5	-

(注1) 従来お中元早期受注ギフトの売上は受注時の6月に計上していましたが、今期から7月出荷分については7月に売上計上することいたしました。

(お歳暮早期受注ギフトについては2009年度下期より実施済み。)そのため、上記売上増減率は、本年・前年とも新基準により修正した売上を比較して対前年増減率を記載しております。次項2の商品別売上高も同様。

(注2) 松坂屋岡崎店(2010年1月31日営業終了)は除く。岡崎店を含めた売上高は、7月度は直営店合計対前年▲2.0%減、百貨店事業合計同▲2.1%減。3~7月度累計は、直営店合計対前年▲1.7%減、百貨店事業合計同▲2.0%減。

(注3) 新基準による本年売上と従来基準の前年の売上(松坂屋岡崎店除く)との比較では、7月度は直営店合計は対前年6.4%増、百貨店事業合計は同6.0%増。

(注4) 参考数値として、大丸松坂屋百貨店のうち7月度の大丸合計は対前年▲0.9%減、松坂屋合計は同▲2.0%減。3~7月度累計は、大丸合計対前年▲0.7%減、松坂屋合計同▲1.8%減。

(注5) 2010年3月から、大阪法人外商は高槻店から心齋橋店へ移管、また、東京店の個人・法人外商および銀座店の個人外商は上野店に移管。

なお、外商移管の影響を除いた売上は、心齋橋店が対前年16.0%増、東京店 同▲1.4%減、上野店 同▲8.5%減、銀座店 同0.4%増、高槻店 同▲1.3%減。累計の売上は、心齋橋店が対前年18.6%増、東京店 同▲2.8%減、上野店 同▲7.0%減、銀座店 同0.5%増、高槻店 同▲1.3%減。

2. 大丸松坂屋百貨店直営店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	7月度	累計
紳士服・洋品	▲2.3	▲6.6
婦人服・洋品	5.5	4.3
子供服・洋品	▲3.6	▲3.5
その他の衣料品	▲9.7	▲8.6
衣料品計	2.8	1.1
身 回 品	▲4.7	▲3.8
化粧品	6.0	3.2
美術・宝飾・貴金属	▲7.2	▲1.4
その他雑貨	▲15.4	▲18.5
雑 貨 計	▲2.9	▲1.4
家 具	▲13.6	▲6.1
家 電	4.5	▲13.0
その他の家庭用品	▲3.0	▲2.2
家庭用品計	▲6.1	▲3.8
生 鮮	1.8	1.8
菓 子	▲1.5	▲0.2
惣 菜	▲5.2	▲2.7
その他食料品	▲6.8	▲6.2
食料品計	▲3.4	▲1.9
食堂・喫茶	▲4.0	▲5.7
サービス	▲38.1	▲38.1
そ の 他	6.2	3.9
合 計	▲1.3	▲1.1

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、心齋橋店北館や京都店でのヤング・ヤングアダルトファッションのクリアランスや名古屋駅店の売りつくしセール的好調が寄与し、前年を上回った。紳士服・洋品は、カジュアルウェアは好調であったが、ビジネスウェアが低調であった。婦人靴、ハンドバッグなど身回品は、梅田店改装工事のマイナス影響が大きく、前年割れとなった。雑貨は、化粧品が4ヶ月連続で前年を上回ったが、美術・宝飾品などの高額品が苦戦した。食料品は、お中元ギフトセンターは好調であったものの、外商ギフトが苦戦した。